

Forest Art

広葉樹文化協会機関誌NO. 1

1991. 9. 30発行

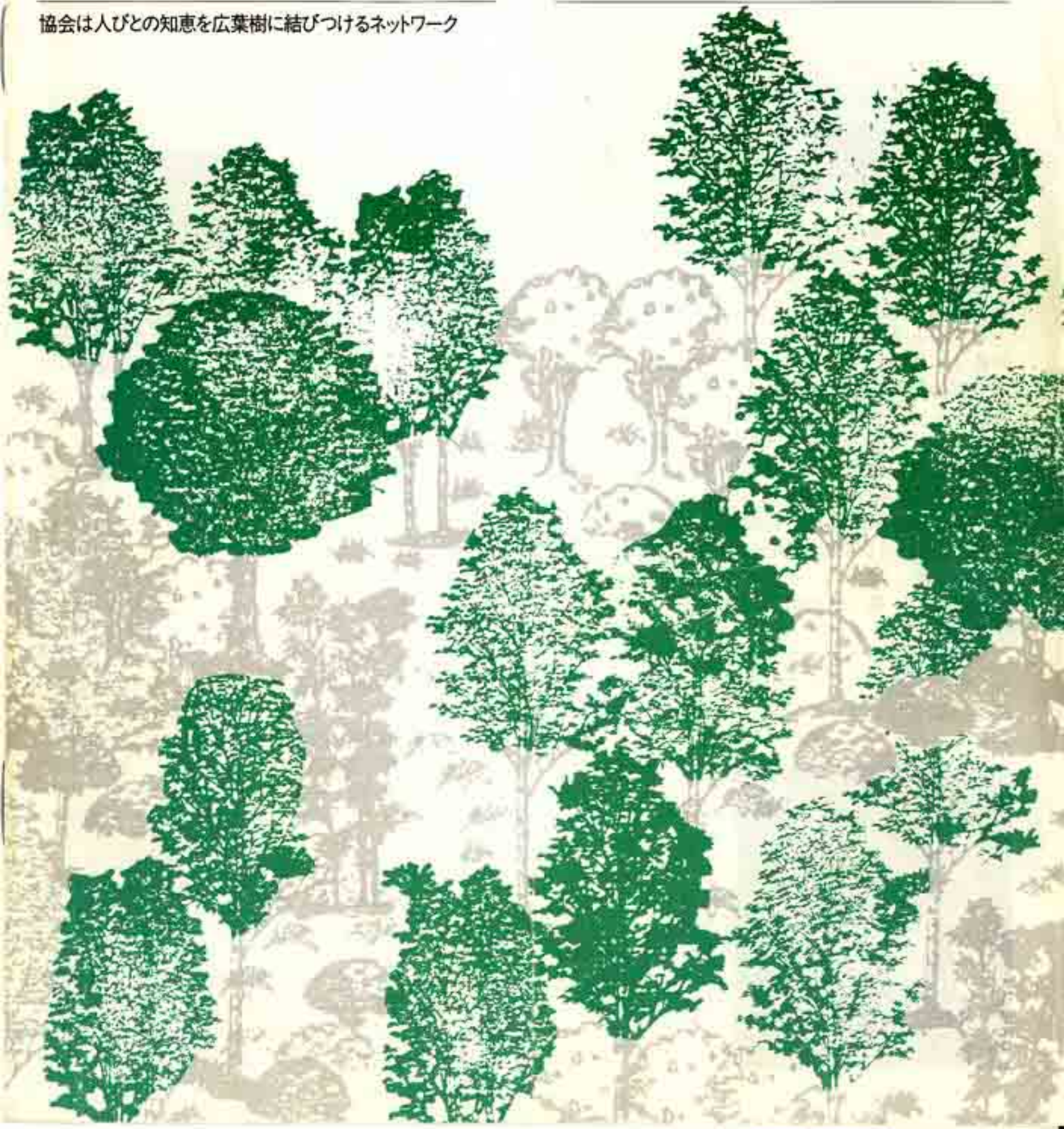
林芸(フォレストアート)会報創刊号

広葉樹文化協会

〒680 鳥取市片原1-106 浜本ビル3F
TEL (FAX) 0857-29-4747



協会は人びとの知恵を広葉樹に結びつけるネットワーク



広葉樹文化協会いよいよ発足!!

記念植樹・フォーラムなど多彩な催しが盛大に行われた。



広葉樹文化協会は、平成3年5月11日(土)、鳥取市内で設立記念行事を開催しました。

当日は天候に恵まれた上、全国各地(東京、大阪、兵庫、岡山、島根)からの参加を得て予期以上の盛会となりました。

まず、同日13:00から鳥取市布勢の総合運動公園(桜の園)西側の雑木林に、リョウブ、エゴノキ、アセビ、カクレミノ、ヒサカキなどの雑木を記念植樹しました。雑木林に雑木を植えるという発想がユニークだと、東京から参加の本江さん(日大)がマスコミに話され、ちょっとした話題になりました。植樹は砂丘園芸の職員のお世話で手際よく進み、県内外の会員約60名の参加がありました。

つづいて、同日14:00から16:30まで同公園の陸上競技場、第3研修室で広葉樹文化フォーラムを行いました。

テーマは「森と人」先ず岸本潤会長がフォレストアート運動について基調報告をし、そのあと吉田幹男副会長をコーディネーターとしてフォーラムに入りました。広葉樹林(雑木林)に関する色々



な角度(野鳥の会、自然保護の会、洋画家、デザイナー、作家、地学者、俳人、緑の相談室、造林学者、過疎を逆手にとる会等々)から多彩な発言がつづき、大変楽しいフォーラムとなりました。それぞれの広葉樹

に寄せられる思い、熱気がつよく感じられた次第です。参加者は約100名で定員80名の研修室は入りきれぬ人が出るほどでした。

さらに、同日18:00から20:00まで、鳥取市末広温泉町の白兔会館で、ささやかながら記念行事のしめくくりとして祝賀会を催しました。岸本会長のお礼のあいさつにつづき、東京の本江一郎氏、神戸の矢木勉氏、広島のアノ周治氏などから祝辞があり、地元の人たちも交々立ってスピーチをし、記念行事の盛会を祝いました。参加者52名でした。



雨あがりのブナ二次林をたずねる「ふるさとの森」に30名参加

「扇ノ山のブナ二次林を歩く」と予告していました。万緑の雑木林を歩く会(7月28日)は、自家用車28台、参加者75名という沢山の申し込みを受け、張り切って諸準備をととのえました。前日になって(処によっては雷雨があるかも...)という天気予報があり、大事をとって目的地を急遽八東町・ふるさとの森(峡谷のブナ林、建物あり)に変更しました。ところがところが、当日集合時間になって俄かに大雷雨となり、とても山へ向える状況ではなくなりました。相談の結果、無念の雨天中止。参加のみなさん(兵庫、岡山、島根を含む)に大変ご迷惑をおかけしました。(とくに鳥取駅集合組の人たちに申し訳ありませんでした)深くお詫びします。雷雨は約30分集中的に降りました。しかし10時すぎには小止みとなったため、布勢公園集合組の中から、改めてふるさとの森行きの動議が出ました。諦めて帰られた方も多く迷いましたが結局行くことに決め小雨の中をふるさとの森へ向いました。

ふるさとの森に到着した11時ごろには、雲間から青空も見える天気となりました。雨に洗われた溪谷のブナ林は大変素晴らしく参加者一同感嘆の声と満足の表情で一杯でした。森の中の宿泊棟を



借りて11時すぎから橋詰教授準備のテキストで、ブナ林をめぐる学習会を約1時間もち、昼食後、万緑の雑木林の遊歩道を歩いてみどりを満喫しました。参加した車は14台、30名でした。昼すぎからはだんだんと晴れて快晴となりましたので、雨天中止の時点で思いきりよく帰られた方々のことを思い、返すがえすも残念でした。

△紅葉の雑木林を歩く会は、雨天にそなえて万全の準備をしますので、これにこりずふるってご参加下さい。

協会役員名簿と会員の現況(8月末現在)

協会は当面任意団体として会則(別紙)により運営しますが、平成3、4年度の役員は理事会で次のとおり決定しました。会長・岸本潤、副会長・吉田幹男、理事・盛田可男、作野友康、白岡彪、浜本真一、古川郁夫、監事・米本哲人、赤木三郎。

会員数438名(賛助会員51名、一般会員374名、学生会員13名)。府県別会員数(鳥取277、東京17、兵庫17、大阪17、京都15、広島14、神奈川8、島根7、岡山6、岩手6、山口6、愛知5 etc)他北海道から九州まで33都道府県にわたり分布しています。男性会員373名、女性会員65名です。

外国からの入会第1号

Dear Dr. KISHIMOTO,
Heartfelt congratulations to you on the opening ceremony of FAA.

We are very happy that your dream -FAA- is becoming reality.

We are glad to be the first international member of your association.

Enclosed, please find membership fee.

U. S. A., PA. DON&SARAH

岸本先生、広葉樹文化協会の発足心からおよろこびします。先生の夢が実現したこと、そして先生の協会の国際会員第1号になれたことを大変うれしく思います。同封の会費をご査収下さい。

アメリカ、ペンシルバニア ダンとサラより

広葉樹林こそ日本の原植生

日本人の原点となる広葉樹林

その土地の森林は、水分と温度の条件でそこへ成立する種類が決まります。日本列島は水分条件は十分ですので、森林帯は温度条件によって決まるわけです。

おおまかに、日本の森林帯の区分をみますと、関東以南の平地は常緑広葉樹林帯(照葉樹林帯)、中部地方の高地から東北、北海道西南部までは落葉広葉樹林帯、北海道の東北部に常緑針葉樹林帯という区分になります。

したがって日本列島の森林は、もともと広葉樹林を主体とする森林帯から成るということになります。

日本人はこれらの暖・冷温帯の広葉樹林の中で、縄文時代以来生活してきたわけです。日本人は森林的性格であるといわれますが、広葉樹林に育まれて形成された性格ということになりましょう。

いま日本の国土の68%を占め、2500万haの森林がありますが、針葉樹人工林約1000万ha、広葉樹林約1000万ha、針・広混交林約500万haとなっています。

私たちの身近の広葉樹林(雑木林)は、私たちに沢山の生活の知恵と快適な生存環境を与えてくれました。しかし、今身近を見渡しますとむかしと比べて雑木林がずいぶん減ってしまったことに気づくのです。

日本の森林帯概略図

- 常緑針葉樹林
- 落葉広葉樹林
- 常緑広葉樹林

西日本主要樹種
シイ・カシ

東日本主要樹種
ブナ・ミズナラ



広葉樹の科学 樹の実

その1. 名称と種類

橋 詰 隼 人

植物は花が咲けばやがて実を結ぶが、その仕組みはたいへん複雑である。花の中には胚珠という卵細胞を蔵した器官が形成されている。受粉した花粉は花粉管を伸ばして卵細胞に達し、その中の雄性核と卵細胞の核とが合体して受精が行われ、胚が発生する。そして胚珠は種子に発達するが、胚珠の周りの部分も肥大して果実ができる。果実は種子を蔵めた器官である。リンゴやナシの果実を割ってみると、中央部に黒褐色の種子があり、その外側に果肉があって、これを食べる。クリの実は外側に堅い果皮があり、その内側に渋皮があって、果皮を除いた中の種子の部分を食べる。樹の実がなる、実を食べるなどというが、実という用語は一般に果実をさしている。またタネというのはふつう種子をさす用語であるが、種子と果実が分離できないものもあり、果実をタネということもある。リンゴのタネは種子であるが、ナラのタネは果実である。

果実の種類はいろいろあり、1つの花から生じたものを単果、2つ以上の花から生じたものを複果（イチゴ）という。また裂開法により、熟すると果皮が破れて種子を散らすものを裂開果（マメ類）、果皮が裂開せずそのまま落ちるものを閉果（クルミ）という。閉果は果皮の厚い多肉果と果皮の薄い乾果に区別され、前者には梨果（ナシ）、核果（サクラ）、漿果（ナンテン）などが、後者には堅果（クリ）、殻斗果（ナラ類）、翅果（カエデ類）、などがある。裂果には莢果（ネムノキ）、蒴果（キリ）などがある。いろいろな樹の実については次の号で説明する。

（鳥取大学農学部教授・造林学）



広葉樹の科学 木の質

その1. 重さと硬さ

作 野 友 康

広葉樹の種類は針葉樹に比べて圧倒的に多い。したがって広葉樹の木の性質も多種多様である。木は水に浮くか沈むかと問えば、ほとんどの人が浮くと答えるだろう。その通り、大部分の木は水の中にほおり込めば浮き上がってくるので木は水より軽いということになる。ところが、中には浮かび上がらずにそのまま沈んでしまう木もあり、これらを沈木と呼んでいる。

木の重さを表す数値は比重であり、体積に対する重量の割合で示される。この値が1より小さければ水に浮び、大きければ沈んでしまうというわけである。では、なぜ重くなったり軽くなったりするのだろうか。それは同じ大きさの木にどれだけ空けきがあるかによって決まるのである。どの木でも空けきを除いてしまうとその比重は約1.5になる（真比重という）といわれているから、木を軽くしているのは空けきであるということになる。

木の重さは樹種（木の種類）によって違っており、「ピン」から「キリ」までである。日本の木の中で「ピン」すなわち、重い木はイスノキやアカガシで比重は0.8~1.0ぐらいで水に沈みそうで沈まないといったところである。「キリ」の方の軽い木といえばご存知のキリ（比重0.2~0.3）である。

キリは昔から我々の生活にいろいろ使われてきたが、これは軽い木というだけでなく、材が軟らかくてソフトな感じであるということも大きな要因である。この木の軟らかさ、堅さは硬度といって、パチンコ玉のような鋼鉄を木の表面に押しつけて、一定深さめり込むのに要する力で表わされる。この値は木の重さにほぼ比例して比重の小さい木は軟らかく、大きい木は硬いということになる。イスノキの硬度をキリの値と比較してみると、木口では約5倍、板目、柾目では約3倍大きい値でイスノキが硬い木であることがよくわかる。

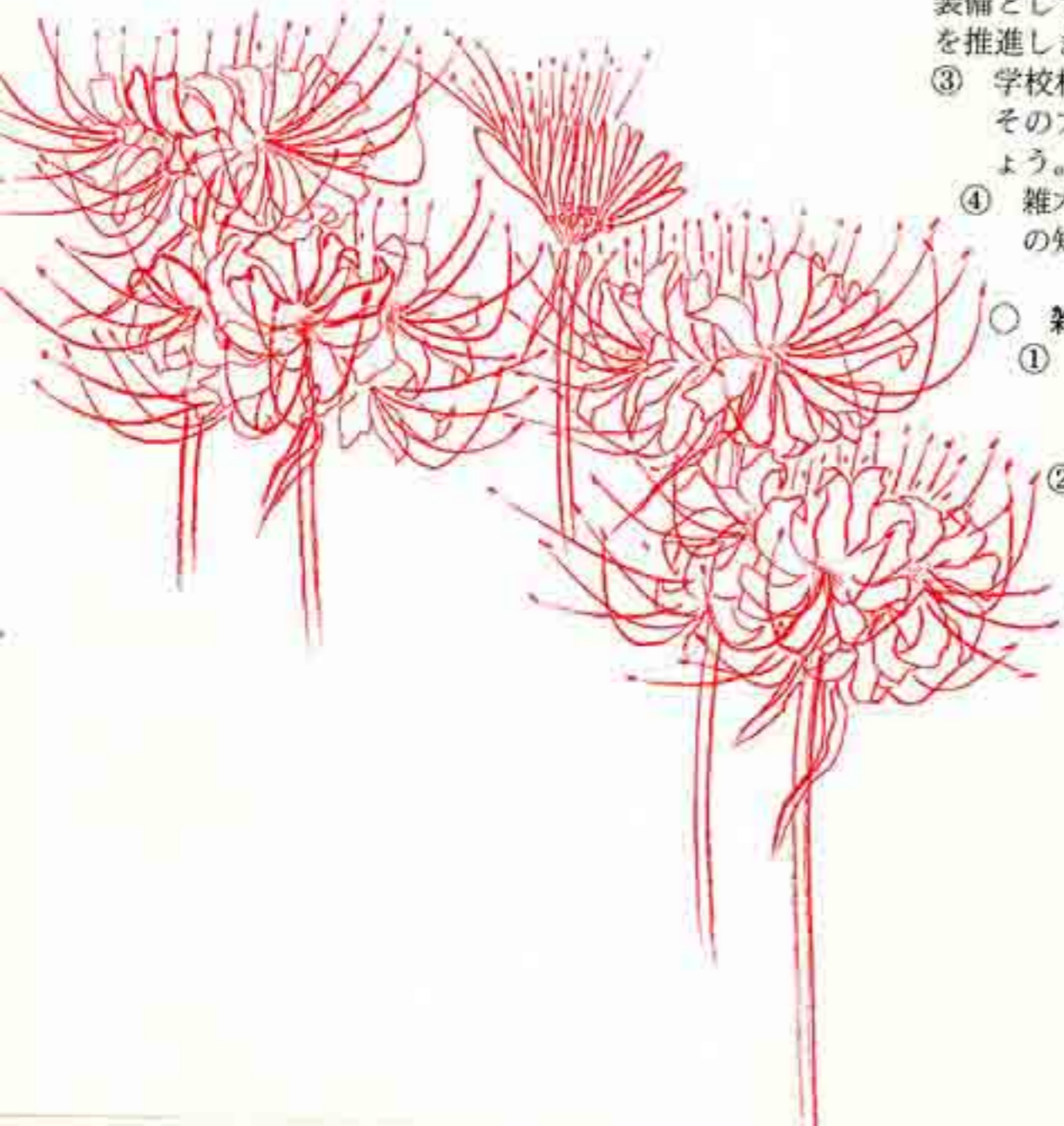
（鳥取大学農学部教授・林産学）

みなさんでフォレストアートを楽しみましょう

林芸（フォレストアート）のすすめ

「林芸」というのは、農業における園芸に対する言葉として考えるものですが、森林の利用において、今までの林業より格段に広い対象領域（産業的、環境的、生活文化的）をイメージするもので、森林をきめ細かく工夫して多目的に活用する「いとなみ」を意味する新概念です。

広葉樹文化協会は、林芸的とりくみによって、森林、就中広葉樹林の可能性を最大限にひきだす工夫をしようと思います。とくにその文化的機能について色々と考えていきたいと思っています。そして広葉樹林（雑木林）が大変貴重なものなのだということを、もっとみんなが知るきっかけをつくりたいと思っています。



フォレストアート運動

〈提言〉

- 雑木林の四季を歩きましょう。
 - ① 今雑木林はどうなっているか、先ず歩いてみましょう。
 - ② 雑木林の四季の推移にふれ、多彩ないのちのいとなみを実感しましょう。
 - ③ 木の効用、林のはたらき、森のめぐみを暮らしの中に採り入れましょう。
 - ④ 広葉樹の文化的なはたらきについて考えてみましょう。
- 雑木林の学校林をつくりましょう。
 - ① 子供たちに日常的な自然体験の場を与えましょう。
 - ② 小中学校にプールやグラウンドと同じような装備として、雑木林の学校林をつくることを推進しましょう。
 - ③ 学校林は地域の手づくりで造成し、そのプロセスを楽しむものとしましょう。
 - ④ 雑木林によって自然とつきあう世代の知恵の伝承をはかりましょう。
- 雑木林の^{いりあひりん}入会林をつくりましょう。
 - ① 森林の知恵と都市の知恵を生かすかたちで新しい時代の雑木林の入会林をつくりましょう。
 - ② 森林の専門家としての林業人は新しい入会林の積極的な提案者になりましょう。
 - ③ 雑木林の種類や立地によってそれぞれユニークな入会林をデザインしましょう。

実践しましょう

お茶づくりでフォレストアート実践

鳥取県米子市に本社を置く「ながた茶店」は創業を享和元年（1801）とする由緒ある茶舗です。このながた茶店、古いというだけでは話題にならないのですが、6代目社長の長田吉太郎氏が大変ユニークな発想、哲学の持主。しかも抜群の行動力で「お茶のすべて」を基本コンセプトにして今日のお茶の在り方を提案しています。

フォレストアートとしてとくに注目したいのは、長田氏がキャッチフレーズとして使っている「生命への思いやり」…長い歳月の中で大自然に育まれてきた樹々の力を借りて…とする自然尊重の哲学、有機農法によるお茶栽培のとりくみ方です。氏は1980年、他にさきがけて自然農法を採用し、とくに照葉樹、シイ、カシ、タブ由来の木酢液や木炭粉末等を、独特な方法でアレンジして茶園の栽培、土壌改良などに利用しています。その結果、生命力のつよい茶樹を育てることに成功し、良質茶を生産して高い評価を得ています。生物生産業が、機械化・金肥・農薬過多にとりかこまれて、食品が危険な状態になっている今日、こうした具体的なとりくみが、「鍵は森にあり」として広葉樹の力を借りてすでに着々と成果を上げていることは、大変興味がありまた大変頼母しいことと思います。

◎広葉樹の皮を原料に抽出精製した木酢酸、炭素粉末など、茶畑の土づくりに役立て、8年前から全面的にとり入れており、化学肥料は一切使っていません。口にするものですから安全第一です。 —長田吉太郎—



林芸随筆

林芸は森林の新しい価値をひきだすことを目指して、飛躍的な発想をしようという呼びかけ、とりくみ方の提案ですから、ひとつの理念、考え方ですが、同時にそれを実現するための個別技術の工夫が必要なので、理念と手法を含む言葉と考えればよいと思います。

同じ雑木林でも、何を主役にしてどう強調して林芸の森に育成するかで状況は大きく変わったものになる筈です。

ましてや、土地が変わり、林相が変わり、地域社会が変わり、目的が変われば林芸の森の姿はがらりと変わるわけです。とくに文化としての広葉樹とのつきあい方には無限の可能性があると思います。

要は、新しい時代世相の中で、森林自然に何が要求されているかをよみとり、その新しい要求をいかに強調して社会化していくかです。森林と都市型生活の新しい共生の図式をどう描くかということが、林芸のテーマであるわけです。

林芸は森林の創意工夫ですから、森林の側からの積極的な提案が必要です。今までも森林として色々な工夫を凝らしてきたのですが、それはどちらかというところ、「モノ」追求をテーマとした森林の工夫であったと思います。現在わが国の林家粗収益の約4割を特用林産物が占めている（平成元年・林業白書）といわれますが、林業不振の中で森林の工夫は意外に健闘していたとも言えます。

しかし、工業化社会への人口の流出はとめどもなく続いてをり、森林の工夫は、「モノ」追求を超えた新しい発想による森林の工夫・就中広葉樹林の文化的活用という創意工夫にとりくまねばならぬ時期に来ていると思います。（岸本 潤）



会員からのメッセージ

広葉樹文化協会に入れていただいてから、山林を見る目が変わりました。針葉樹林の持つ人間くささが気になり出して、この存在が、“自然”というものを日本人から遠ざけているようにすら思われるこの頃です。(兵庫・矢木 勉)

林芸に関心をもっています。広葉樹こそ注目されるべきと思っている私に嬉しいお知らせをありがとうございます。(兵庫・柴沼 泉)

私は会社にて500ha、個人で70haの山林を管理している者でございます。針葉樹植林を会社で上記の内300ha、個人で30ha施業しておりますが、これまでも樺、桜、槐は全部残して植林していましたが、広葉樹についていろいろ考えさせられるところでもございました。どうか今後の御指導を何卒宜敷くお願い致します。(島根・河角 明德)

退官後も相変わらず忙しい日々を送っておられるでしょう。貴兄のまとめた「広葉樹と日本人」私も広葉樹業者団体にいたこともあり大変興味をもって読みました。有難う。これからも頑張ってください。(福岡・藤縄 文明)

この度のフォレストアートの趣意書をいただき、先生の随想や広葉樹にかけられた願いやご決意を拝読いたしました。(中略)人の心や体の自然への回帰、文化の原点にむけての先生のご努力に敬意を表し、手紙を差し上げました。私、現在は、下手なカメラで一本の木、一つの山を対象に四季おりおりの定点撮影を始めております。これは広葉樹でなければ始まりません。(広島・中村 羊一)

5月11日(土)の設立会にはこちらからも参加したいと思っております。(中略)いずれ島根県でも趣旨に賛同して、広葉樹文化協会支部を設立するつもりです。その際はお話をさせていただくようお願い申し上げます。(島根・服部 圭伺)

行事案内

紅葉の雑木林を歩く＝秋の行事

と き：平成3年11月2日(土)、3日(日)

と ころ：鳥取県西伯郡大山町大山寺
大山観光会館及び大山寺周辺

行 事：第1日・植樹、広葉樹文化フォーラム
懇親会、(受付12:00、植樹13:00、フォーラム14:00、懇親会17:00)

第2日・紅葉の雑木林を歩く会、野点茶会、雑木林句会、(歩く会9:00、茶会11:00、句会12:30)

参加費：宿(大山観光会館)1泊2食(懇親会含む)8,000円、懇親会のみ5,000円、茶会500円、句会500円

申込〆切：平成3年10月15日

申込先：同封ハガキで。協会宛。(会員外の参加も歓迎)

なお、参加申込者には、旅館パンフ、米子―大山寺バス時刻表、略地図、諸行事の実施要領など詳細についてご連絡します。

行事予告

裸木の雑木林を歩く会

平成4年1月26日(日)鳥取市近郊を予定しています。

(天候により冬芽についての学習会をします)

F A A蔵書・ブックリスト(その1)

- 稲本正・姉崎一馬：木は生きている(あかね書房・1988年)
- 平野隆久：雑木林(文一総合出版・1989年)
- 中山周平：雑木林ウォッチング(小学館・1989年)
- ジャックウエストビー・熊崎実訳：森と人間の歴史(築地書館・1990年)
- C・Wニコル・竹内和世訳：Forest(徳間書店・1990年)
- 矢口 純：東京の雑木林(福武書店・1991年)
- 村井宏ほか編：ブナ林の自然環境と保全(ソフトサイエンス社・1991年)

編集後記

4月にパンフレット「フォレストアートへのおさそい」を発送以来、予期以上に反響が大きく、全国各地(33都道府県)から加入申込みをいただき感激しています。現在(9月4日)会員数439名です。5月11日に設立記念行事を盛会裡に終えてからは、万緑の雑木林を歩く会の準備、それから会報発行の準備と大忙しでした。ようやく曲がりなりながら創刊号発行にこぎつけました。出来栄は不十分ですが、会員みなさんのご感想やご意見を得て少しづつ良くなって行きたいと思っています。気軽にご提言下さい。どうぞよろしく。(J)

